

(別記)

令和3年度函南町農業推進協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積 173ha、主食用米面積は 164ha で、転作作物としては、平坦地において、ハウス栽培での野菜への転換を主に行っている。

農業従事者の高齢化や後継者不足などを背景として、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中、水稻作付面積の維持、高収益作物作付への転換が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

高収益作物の推進としては、農協と協力し函南町の特産物である、イチゴ・トマト・スイカを中心に拡大をしていきたい。人・農地プランの実質化を産地単位で行うことにより、新規就農者の参入がスムーズに行えるようサポートを行う。

高収益作物の拡大意向や参入意向があった場合には、農地を確保するため、農地中間管理機構との連絡調整を密にし、優良農地の確保に努める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

現状主食米を生産している水田は、協議会として病害虫の防除の補助を行いながら、生産を維持するとともに、荒廃化を防いでいく。

水稻作が長年に亘って行われていない農地を、農業委員会の農地利用状況調査等により確認する。その中で高収益作物に導入が可能と思われる地域を選別するとともに生産者に声掛けを行い、畑地化に取組んでいく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

静岡県農業再生協議会が示す需要量予測に沿った作付面積を確保するとともに、前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、売れる米づくりを目指し生産を行う。

(2) 非主食用米

飼料用米について、地域の部農会等にて農地を取りまとめ、集積を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

函南町・JA 三島函南・JA 函南東部・地域部農会などで地域の実績を把握・情報共有し、それを基に現行の作付面積を拡大するよう働きかけを行う。

(4) そば、なたね

そばについて、蕎麦普及事業により、協議会から地域の農家に不作付地へのそば栽培を依頼・種子の配布をしていく。

(5) 高収益作物

水田を活用し、トマト、イチゴ、スイカ等の作物の作付を拡大することで不作付地の減少につなげる。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積等 (ha)
主食用米	164	163.5	163
備蓄米			
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米			
麦	0.2	0.2	0.2
大豆	0.2	0.2	0.2
飼料作物	1.7	1.7	1.7
・子実用とうもろこし	0.3	0.3	0.3
そば	0.3	0.3	0.3
なたね			
高収益作物	19	19.5	20
・野菜	19	19.5	20
・花き・花木			
・果樹			
・その他の高収益作物			
畑地化			

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
	県設定の産地交付金を活用する				

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり